



第13回 論語指導士 熊本かほる（第八十三号）福岡県

私方、「子ども論語」の講座を軌道に乗せてからと思うもので、報告がなかなかできずにおります。またロータリーやカルチャーなどで大人向けの論語講座を10年ほど行ってきましたが、良く考えてみれば、人様に報告できるほどの実績が積んでいるわけではありません。

実は、今年春から、福岡市の生涯学習施設の講座ディレクターを引き受けまして、それも子ども向け論語講座を公共の施設で行いたいがためでした。私のやり方は万事迂遠な方法ばかりです。『論語』を4～5年かけて読み終えた受講者と「ごまめの歯ぎしりみたいなものだけど、やっぱり孔子の教えを伝えていかなければね。生活に落としてね。」と話しあっております。この方々には『大學』も読了していただきましたが、完全な修了生はそれでも20名ほどです。まさに小さな活動であってごまめの歯ぎしりです。

加地先生のお話を聞きに行きたいのですが、なかなか出席できずにおります。最近先生は『孝経』をじっくり読み返しております。孝こそが家族秩序の基本であるとの確信があります。コロナ禍で外出が制限され、家族の紐帯に皆さんの関心が向いています。家族の求心力がともすれば失われそうになる現代社会において、これはとても良いことで、怪我の功名のようなものでした。

私が受講者にお話する孝は、いわゆる親孝行というような一方的なものではありません。あくまで双務的関係の孝です。

子を慈しみつつ正しく育てようとする父母の心力（責務）と親を敬愛し続ける子の心力（責務）、この親と子の双務的関係が確立されれば、一定の社会秩序が自然に築かれていきます。私はこの関係性を孝だと考えています。古代から感染症の災厄は繰り返し起こったでしょう。戦争などと同じように、それは人災の側面を必ず見せます。

孔子の教えは、そのような人間のもろさ弱さ醜さをわかったうえで、まずは家族が互いを守るための責務を愛情で果たしていく、これこそが、人間、そして人間社会を救う方法だと教えているのだと思います。



「加地伸行からの百字答礼」

熊本かほる様へ。

すでに経験が十分と思います。福岡市の生涯学習センターでの論語塾開講を大いに期待しております。ぜひともがんばってください。これから幾山河となりましようが、くじけずに一步一步のお気持ちでお進みください。